

これからの時代の学びについて

20180216

群馬県民間保育園・こども園協会 久保健太
久保 健太

- 学びには三つのレベルがある。

- 1. 教えられた通り、言われた通りのやり方で、問題を解決する。
- 2. 自分なりのやり方で、問題を解決しようとする。
- 3. 新しいやり方を編み出すことで、問題を解決しようとする。

- 学びには五つの段階がある。
 - 1. やりたい
 - 2. やりたいけど、できない。できないけど、やりたい。
 - 3. やった！できた！
 - 4. いつでも、どこでもやりこなされる。
 - 5. できるようになったことが、周囲に波及する。

• やりたいけど、できない。できないけど、やりたい。

• やりたいけど、やらない。

- ① Y と N を理解するポイントではないかという箇所、線を引いてください。
- ② 「①」の箇所を手がかりに、それぞれの箇所について、子ども理解をしてみてください。
 - 5分ほど、時間をとります。

- お隣の方と共有してください。2 時 40 分まで。
- 数名の方に、発表していただきたいので、まとめておいていただくと助かります。
- 理解①②：Yくんは、自分がいまハサミを必要としていたから、言葉で伝えた。Nちゃんに

「ちょっとでいいから」。

- けれども、「いや」と言われ続けてしまった。

過去の経験から、Nちゃんは、「Yさんに貸したら、もどって
かも知れないと感じていた」から、「いや」と言い続けた。

- N は「お花屋さんごっこ」のためにとっておきたいということは伝えなかった。
- 理解③：「絶対にいけない」と言われている。

「ちょっとでいいから」と言ったのに、貸してくれなかった、という思い。「いや」とだけ言われた。その事情をみんなから受け入れられなかった。

- Tちゃんが「かわいそうだよ」と。その言葉が

Y 君の救い。「わかってくれる子がいた」という思いから、
泣きだした。

- 理解①②：Y くんは、自分がいまハサミを必要としていたから、言葉で伝えた。N ちゃんに「ちょっとでいいから」。

- けれども、「いや」と言われ続けてしまった。過去の経験から、Nちゃんは、「Yさんに貸したら、もどってかも知れないと感じていた」から、「いや」と言い続けた。
- 基本的信頼：「この人は、自分の欲求表出に、応答してくれる人だ」という感覚。

- 不信「**応答**してもらえない」という感覚。
 - 欲求：くっつきたい欲求。おなかいっぱい欲求。
- 基本的信頼：「この人は、自分の**欲求表出**に、**応答**してくれる人だ」という感覚。
- 不信「**応答**してもらえない」という感覚。
 - 欲求：くっつきたい欲求。おなかいっぱい欲求。

- 貸しても、返してと言えば、返してくれる。
- ゆずっても、自分の番が来る。
- 失敗しても、側にいてくれる。
- 助けてと言えば、助けてくれる。
- 離れていても、もどってきてくれる。

- 理解②：YとNのあいだの基本的不信。不信が信頼を上回っている。
- 方針②：YとNのあいだに、基本的信頼を育む。

- リヤカーの子どもたち。「助けて」と言えるのは、子どもどうしの**基本的信頼**があるから。
 - これは、**子どもと大人の基本的信頼**とはちがう。
- ハプニングと一緒に対処する。
 - 日案よりも、ハプニングを、2 分間だけ優先する。

- 2分間のあいだに、助けようとする。
- 「この子は、私のことを、助けようとしてくれる子だ」という感覚。
 - 助けてくれる人（能力）
 - 助けようとしてくれる人（気持ち）
- ぬれちゃった、こぼしちゃった、たおれちゃった

- 物的：大きさ、高さ、重さ
- 遊び込むためには、「奪われない」。

- 第二期：自律性と恥

- 自律性：自己決定：自分のことは自分で決めたい。

- 恥：周囲が自分に期待していることがわかる。その**期待に**応えたいとも思う。しかし、今の自分が応えきれていないこともわかっている。

- この二つのせめぎ合い。自分で決めたい。しかし、期待にも応えたい。
- 承認欲求
- 1. まるごと受け止めてほしい。できる自分も、できない自分も。いい自分も、悪い自分も。
- 丸ごとの応答によって。

- 2. いいことをいいと認めてほしい。悪いことは悪いと言ってもらって構わない。
- できないから、やらない。
- ①不信：できないと見放される。応答してもらえない。
- ②恥：期待に応えないといけない。自分は応えきれていない。
- 「できているよ」=あなたは、期待に応えてくれているよ。
(②の場合)。

- ①の場合
- できないから、やらない。
 - ①不信：できないと見放される。応答してもらえない。
 - ②恥：期待に応えないといけない。自分は応えきれていない。

- 「できているよ」=あなたは、期待に応えてくれているよ。(②の場合)。
- ①の場合：できてなくても側にいるよ。見放さないよ。
- 理解③：座布団に落書きをしてしまった。その行為が、期待を裏切る行為だということを、Yくんがわかっているのかどうか？

- すでに恥ずかしさは感じているのではないか？
 - 期待が伝わっていないのではない。
 - 期待に応えたいと思っていないことが問題。
- 方針©：「期待に応えたい」「助けようとしてくれる人を、困らせたくない」という感覚を、Yさんと周囲のあいだにつくる。

- 方針③と保育方針は重なる。
- 第三期：自主性と罪悪感のせめぎ合い
 - 自主性：自分がイメージする世界を、自分の手でつくりあげたい。
 - 集団のなかでの役割がわかる。
 - 一日の中での、いまがわかる。時間的見通し。

- 罪悪感：自分のしたことが、**全体**に（集団に、のちのちに）
迷惑をかける。
- 適切に働けば「**責任感**」になる。
 - 不信は慎重さに、恥は承認欲求につながっている。
- 応答してくれる人だという**基本的信頼**を培う（第一期）。

- その信頼をもとに、**自己決定**をする（第二期）
- 自己決定をもとに、**自分の世界**を、自分のイメージ通りにつくる（第三期）。
- 自分の世界をつくるために（自己決定をするために）、**道具や技術**を獲得する（第四期）。

- その子なりのやり方

- 正しいやり方

- ➡「期待されるやり方」。

- 自己決定よりも、「喜ばれるやり方」を優先する。

- 理解①②：Yくんは、自分がいまハサミを必要としていたから、言葉で伝えた。Nちゃんに「ちょっとでいいから」。
 - けれども、「いや」と言われ続けてしまった。

過去の経験から、Nちゃんは、「Yさんに貸したら、もどって
かも知れないと感じていた」から、「いや」と言い続けた。

- Nは「お花屋さんごっこ」のためにとっておきたいということは
伝えなかった。

- 1. 今日のポイントだと思った点。
- 2. ちょっと聞いておきたい点。

- 3 時 55 分まで、周圀の方と。
- ①「自立」と「助けて」の関係。

- 自立の考え方を変える。
- 自立：これまでは「自分のことは、自分ですること」。
 - これからは「自分たちのことは、自分たちですること」。
 - これまでは、依存しなくなること。
 - これからは、適切に**依存し合う**こと。

- その上で、**食事、排泄、着脱**だけは、自分でできるようになる。
 - ② イヤイヤ期への対応
 - 対応1. ○「どうしたいの？」（未来）
 - △「どうして・・・したの？」（過去）
 - 対応2. ○ その未来を、一緒につくろうとする。
 - △ その未来を、大人がつくりあげてしまう。

- 対応 1、2 によって、「この人は、応答しようとしてくれる人だ」という基本的信頼を。
- 対応 3. ○ こちら側の期待を伝える。「してほしいこと」を伝える。
- △ 「してほしくないこと」を伝える。
- 対応 3 によって、「期待」を伝える。